

## 企業交流会実施報告



# 第33回企業交流会報告

事業部会/企業交流企画委員会

## 1. 概要

2024年2月9日（金）、第33回企業交流会をテルモ様の甲府工場にて対面とリモートのハイブリッド形式で開催した。2019年以來の対面での開催となり、多くの方が現地で参加した。現地参加93名、リモート参加48名、総計141名の参加があった。

「経営課題達成に向けた技法融合の方向性を探る」をメインテーマとして、技術開発や製品設計のプロセスを全体最適化し、経営課題を達成するための技法融合のあり方を、さらには人財育成のあるべき姿について、実践例の発表と討論を行った。

まず、椿会長から「技法を融合するというテーマは重要なテーマだと思いますので、いろいろと活発な議論ができればと思うところです。」との挨拶を皮切りに、会は開始された。

## 2. プログラム内容

### 2.1 講演 「医療機器開発の課題、課題解決への取組み」

テルモ（株） 福田真樹

事業内容・企業理念の説明の後、医療機器に求められる要素の説明があり、目指す開発のために課題を分析したところ、現実には、生産維持に多くのリソースを投入して、新商品開発に注力できていない。理想は、新商品開発と生産維持の両立を図り新商品開発の件数増やすことなので、現状のリソースでの最大効率化を図ることを目論んでいる。

課題解決への取組みとして次の2つを掲げている。

・技術力の向上：品質工学の活用は重要なポイント

・グローバルでの連携：海外グループ会社技術者との技術共有、連携

### 2.2 事例発表

(1) 「現場の技術課題を解決するための手法連携によるプロトコル活用

オリンパス（株） 三木基晴

製品開発の効率を高め後戻りを無くすために 従来の勘やコツ、自己流を脱却し、科学的論理的な製品開発プロセスに変えるべく科学的手法を導入（2009年）。代表的な手法として、QFD,TRIZ, タグチメソッドを導入し、プロトコルを立ち上げた。

先行している不具合解決プロトコルは、4つのフェーズ7つのステップから成り立っている。要因把握徹底と基調メカニズムを明確にして後戻りを探せない仕組みである。

活用すべき手法を紐づけた汎用的な解決手順で、要因把握の徹底と、メカニズムを明確にして後戻りさせない。部品表の部品1個1個に対して、網羅的にチェックして特性要因図を描く。

(2) 技術力向上と人財育成に貢献する品質工学推進活動

日産自動車（株） 西野眞司

品質工学を推進しようと2006年に推進戦略が策定され、経営目標達成に貢献するための3つの方策に有効な品質工学の教育を明確にして、共通のプロセスを導入して取り組んできている。

生産技術部門では品質工学を有効に活用するために資格認定制度を採用している。それぞれの認定基準があって、その認定を満たした技術者を育てる。標準プロセスとして5つのフェーズ、9つのステッ